

令和2年度（2020年度） 第2回 特別史跡熊本城跡保存活用委員会 主な意見

資料1

■日時 令和2年（2020）11月11日（水）14：00～15：30

■場所 熊本市役所 14階大ホール

■出席者 伊東（龍）委員長・河島委員・坂本委員・永田委員・西嶋委員・服部委員・廣瀬委員・松田委員・毛利委員・山尾委員・山田委員 計11名
 ※伊東（麗）委員は欠席

【前回委員会の主な意見について】

委員	委員意見	当日の回答	対応（回答担当案）
廣瀬	<p>波奈之丸について。特別公開に合わせて博物館との共通チケットを販売しているが、波奈之丸を展示している博物館のアピールが不足している。チケット販売所に案内物や掲示物があれば、博物館にも訪れてもらえるのではないかと。</p> <p>翻訳について。「御祈祷所」がそのままローマ字表記であったので、確認をお願いします。</p>	<p>博物館のPRは工夫する。翻訳で指摘された箇所は訂正できるようにしたい。</p>	<p>博物館とも連携し、熊本城の各券売所等でのチラシ設置いただくほか、ホームページでのご案内など、引き続き波奈之丸や熊本博物館のPRの強化に取り組んでいく。</p> <p>翻訳については、ローマ字表記を改めるとともに、来場者にわかりやすい解説文作成を行っていく。</p>
河島	<p>樹木について。通町筋から熊本城が正面に見えるが、樹木が生い茂っていて櫓や石垣が見えない。観光客に城であると分かるように、櫓や石垣が見えるように樹木剪定したらと思う。さらに言えば西側の新幹線側からわずかに天守閣が見える。もう少し城だと一目で分かる方法はないか。少しでも樹木を切れば見えると思う。</p>		<p>史跡と緑の調和を図り、樹木の適切な管理を行うことを目的に樹木に関する詳細な管理基準を策定予定である。そのため、現在は、樹木点検を実施中であり、R3年度は策定に向けた検討を行っていく。この基準に基づき、城内の剪定等の樹木管理を実施する。</p> <p>ご指摘の箇所は保存活用計画の中でも視点場に指定されている場所でもあり、特に重視しながら管理方針を決定した上で対応を行う。</p>

【報告】

1) 熊本城特別公開等について

委員	委員意見	当日の回答	対応
松田	<p>特別公開第2弾の入園者数について、予測した数字だったのかと、その評価を聞きたい。来年度の第3弾は熊本市だけでなく熊本県観光の目玉になると思う。観光業界も期待している。一つお願いだが、各旅行会社が来年4月から9月の上期のパンフレットを作成していて、最終段階に入っている。できれば今月中に情報やデータを各旅行会社に提供いただきたい。入園料改定の可能性があるということも含めて、旅行会社に伝えていただき、12月の議会を通ったらすみやかに変更を伝えていただけたら、パンフレット納品に間に合うのでお願いしたい。また3館共通券について、伝統工芸館や美術館があるので、回遊性の向上のため県と市を乗り越えた形で、具体的な連携ができればありがたい。今後の検討を希望する。</p>	<p>第2弾入園者数の予測は、コロナ禍の影響で数字的予測は行っていない。最初は密集が生じないよう1時間当たりの入園者数を決めて、1時間200人程度、8時間で1600人程度が城内に入れる人数であると想定していた。</p> <p>国の政策・天候・コロナ禍の状況で大きく変動することから、希望的観測はよくないと考えているので、第3弾も予測は立てないが、状況を見極めながら対応していきたい。</p>	<p>4月の天守閣の内部公開や料金改定に関する情報について、市観光政策課やコンベンション協会等と連携しながら、JNTOやJATA等を通じて旅行会社等へ情報提供をさせていただいた。今後も、関係機関と連携しながら、引き続き旅行会社等への働きかけを行うほかチラシ・ポスターの作成・配布等により市民の機運醸成、誘客の促進等のPRを行っていく。</p>
坂本	<p>目標はある程度の数字があると、旅行業界も連携する際に実質的政策が立てられるのではないかと。対策を立てるためにも目標に向かっての実施とそれに対する原因分析が必要。</p>		<p>新型コロナウイルス感染症の状況により求められる対応は大きく異なってくるため、そうした状況も踏まえながら、市観光政策課や旅行業界等とも連携して誘客の促進に努める。</p>
服部	<p>刑部邸のライトアップの件。刑部邸の修理ができていないが、移築とはいえ江戸時代の建物で文化財的価値は高い。熊本城は重要文化財建造物が最優先で、復元建造物はその後と聞いている。刑部邸自体は文化財に指定されているのか。であれば、修理の順番はどのようなものか聞きたい。また個人的感想として、カラーのライトアップでは</p>	<p>刑部邸は県の重要文化財に指定されている。国の重要文化財の復旧が優先順位の高いものとして修理を進めているが、刑部邸も同じように進めていく。来年から建物の復旧設計に着手し、終わり次第工事に入る。</p>	<p>建物の復旧設計を令和4年度まで、復旧工事（構造補強を含む）を令和5～8年度で実施する予定。</p> <p>旧細川刑部邸のライトアップについて、原則として自然光を使用しているが、幻</p>

	なく自然光が馴染むと思う。	建物復旧するにあたり、耐震化も含めてより適切な構造補強にしていきたいと考えている。	想的な雰囲気醸成のため一部カラーを使用した箇所がある。委員意見やご来場者のご意見も踏まえながら、文化的価値や景観を損なわないよう努めていく。
西嶋	DX・ICT活用関連と、夜間開園に関して。DX・ICT活用が得られると、今回は単に人数だけだが、周辺の回遊行動も提示できるようになる。そうするとGPSデータなどで「どのような回遊をしているのか」という分析も出てくると思う。資料に「DX・ICT活用をする」という表記があるが、ぜひ入場者数がそういうものに伴って分析されて、色々な活用が広がっていくことに期待している。その方向で段階的にでも構築していったらいい。最終的にはエビデンスに基づく政策を展開することが重要。夜間開園・ライトアップに関しては、熊本市は都市デザイン室が夜間景観の総合的検討を今年度から始めると聞いている。そちらとも連携し、日没の状態でどのように城が見えるかチェックすることで、ライトアップの重要性がクローズアップされると思う。夜でも街からどういう風に城が感じられるのか検討いただきたい。夜間景観を楽しんでもらうためには、どのように歩いてネットワークされた所を進んでいただくかという歩行空間が重要になるので、整備などに結びつけていただければと思う。	DX・ICT活用について、電子チケットや電子決裁を導入していく。入園者数の分析や、いずれ入ってくる海外からの観光客の分析過程の構築ができればと考えている。	特別公開第3弾の開始にあたり、電子チケットや事前決裁といったDX・ICT技術の導入を予定している。委員ご意見も踏まえ、周辺施設等と連携しながらこうした技術の活用による分析やそれに基づく対応に取り組む。 都市デザイン室が策定を進める「熊本市光のマスタープラン」についてはワーキンググループの一員として共に情報共有を図っている。マスタープランのガイドラインに則り、関係各部署と連携を図りながら熊本城のライトアップに関しても進めていく。
西嶋	熊本城を手始めにデータを活用し、横展開をしていただきたい。部局や県・市を越えて横展開をしていただくことで、別のネットワークを作るきっかけとしていただきたい。		
毛利	特別公開第3弾の「熊本城観光の価値の向上」の中に「教育における利用の促進」が挙げられている。見学旅行、校外活動、写生大会などとあるが、下にある「ウォークラリー・スタンプラリー」は秋のお城	具体的に、どういった形でやるということは決めていない。色々なやり方があるので、地域の皆さまから意見をいただき検討した	教育における利用の促進を図るため、見学旅行、校外活動、写生大会などの誘致を想定しており、新型コロナウイルスの状

	まつりのチラシにあるARウォークラリーのことを示しているのか。スタンプラリーは別に企画しているのか。熊本市内の小中学生にできるだけ熊本城に来てほしいと企画していると思うが、地域の子どもたちにどのような案内をしているのか。ウォークラリー・スタンプラリーについて補足いただければと思う。	い。	況等も踏まえながら、教育委員会と連携した案内をはじめ、お城まつり等のイベント時における実施などを検討していく。
山尾	第3弾の公開で北ルートと同時に使うと、両方から入ってくる際、1時間当たり200人をどのようにカウントするのか。管理するのはかなり大変なことかと思う。天守閣は別料金になるのか分からないが、多くの方が登閣を希望してかなり時間がかかるのではないかと。この辺りの運用は決めているのか。天守閣に登ることができるとなると、入園者数も変わってくるのではないかと思う。小天守も一緒に見ることができるのであれば、今まで以上の集客能力というのが熊本城にあるので、検討しておいた方が良いのではないかと感じた。	6月1日の特別公開第2弾の時は、コロナの状況がわからないので、密集が生じないよう1時間あたり200人を目安にするという形で制限をしていた。現在は入園者数の状況や感染拡大防止策が確立しているということで、入場整理券の配布は止めている。現在、日祝の特別公開は、北ルートを開放しており、人数制限を設ける状況にはない。第3弾の運営については、具体的にはまだ決めていない。	天守閣の登閣希望者が多数の場合、待ち時間が生じる可能性があり、新型コロナウイルスの状況によっては、通常時よりもさらに登閣者数を制限する必要が生じることも想定される。 天守閣内部公開にあたっては、ICT技術の活用により登閣者数を把握し、あらかじめ混雑状況を確認できるよう公式ホームページに待ち時間を表示したり登閣待機者に整理券を発行するほか、見学順路の設定、柔軟な案内・誘導の実施等により、可能な限りスムーズなご案内に努める。
山田	縣市を越えた連携で、熊本城を中心とした周辺の文化施設を回遊できる仕組みを。わくわく座と熊本博物館との共通券のようなものが、縣市を越えて存在すると利用者にとっていいのだが、できないにしても文化施設を回るスタンプラリーのような工夫があればいいと思う。縣市連携のことはぜひ進めていただければと思う。 教育における利用の促進について。秋の修学旅行シーズンは専ら南九州の子どもたちが多く、市内県内の子どもたちは授業時間の問題で厳	縣市の連携に関して、壁は高いが良い形にできればいいと思う。料金の優遇措置は現在小中学生と、65歳以上は無料の優遇制度をとっている。今回の料金に関して、段階区分は考えていない。サービス面でできるような仕組み作りを考えていきたいと思う。修学旅行の子どもたちについて、今年は福	文化施設を回るスタンプラリーやライトアップ等の取組については、周辺施設等との連携を図りながら、お城まつり等の機会を捉えた連携事業の実施などを検討していきたい。 教育における利用の促進については、新型コロナウイルスの状況等も踏まえなが

	<p>しく、そこをどのように働きかけて上手に来てもらえるかの仕掛けがあればいいと思う。入園料の件について、復旧の問題とは切り離し維持管理経費などの収支バランスをとるためということだが、それについて市民や小中学生には優遇措置とか段階的な料金体系を想定されているのか。</p>	<p>岡・佐賀・県内・関東・関西も含めて色々な所から来ていただいている状況である。「熊本城は話題性や屋外で安全に見学させられるので選んだ。」との声が多い。県市連携では、お城まつりの期間中に美術館や博物館の開園時間の延長、庭の木々のライトアップの共同開催など、今まで以上に県市連携、周辺施設の連携は前向きに取り組めるようになったと思う。</p>	<p>ら、教育委員会と連携して市内の学校に見学旅行、校外活動、写生大会などの実施について案内を行ったり、観光政策課や旅行業界と連携した修学旅行の誘致等に取り組んでいく。</p>
廣瀬	<p>回遊性に関して、周辺施設に博物館や県立美術館・伝統工芸館があるが、熊本城のホームページで、例えば「おすすめルートを紹介」を掲載してはどうか。お城ブームに乗り、インスタ・ホームページ、メディアを活用して、第3弾をアピールすることが重要。ウォークラリー・スタンプラリーについては、ワンピースや鬼滅の刃など流行りのものを活用するのも良いのでは。横のつながりについて、海外の観光客が公共交通機関でクレジットカードが使用できないことを驚いていた。キャッシュレス化が進んでいるので、可能であれば検討いただきたい。</p>	<p>観光ルートについて、来年度の特別公開で業務委託を予定しており、公開ルートや多様な観光ルートの設定も業務の中に入れていくので、来年は観光ルートを作成した上でホームページに載せるといった業務が出来てくると考える。ワンピースなどの活用については、行政の横連携という形になる。スタンプラリーの話もあったが、検討できればと思う。</p>	<p>周辺施設との回遊性向上については、周辺施設や市観光政策課等とも連携しながら、おすすめルートの設定やホームページでの案内など様々な形での情報発信に取り組んでいく。</p>
河島	<p>美術館・伝統工芸館との連携はぜひ必要だと思う。美術館分館との話し合いもしていただきたい。棒庵坂について、高齢者の方が増えて観光客の回遊性を求めるなら、一部を階段にしてもっと安全に昇り降りができないか。回遊性が大事であれば改良し歩きやすい坂にしていきたい。</p>		

2) NHK跡地の土地取得について

委員	委員意見	当日の回答	対応
	特に無し。		

3) 熊本城の復旧取組状況について

委員	委員意見	当日の回答	対応
	特に無し。		